

毛利のサンヤ(産家)夜話

毛利 種子

毛利助産院(神戸市)

前回登場の瀧澤さんとは時々電話でお話するくらいでお互い忙しくしています。親しくさせていただいて十年あまりになります。お互い相通ずるものを持っているようで、心丈夫に思っています。先日、NHKの『新日本探訪』という番組で瀧澤さんのお産を見せていただき、“私たち先輩の行なってきた姿が今も残され、愛されている。そして、これが助産婦の姿である”と感銘し、私もこの仕事を愛情と喜びを持って続けていきたいと思いました。

夜話を始めましょう

3回目出産したEさん。2回目出産したAさん。4回目出産を待つTさんは、初回は帝王切開で、2回目、3回目と経陰分娩。今回は経陰分娩を希望し、チャレンジしている。今夜は、この方々の声を聞いてみたいと思う。

娘に出産を見せたい

Eさんは、20歳の時にスウェーデンの性教育映画を見て、自分がお産する時は分娩場所の選択が大切であると思ったという。母と子の対面時間が決められていて、計画出産のためラミナリアを入れて子宮口開大しているのを見て、びっくりしたようだ。

初回妊娠した時は、姑が安全第一の出産を勧めるため病院で診察を受けていたが、どうも納得いかず、妊娠8か月で転院。助産院で分娩台を使用して安産した。2回目は産婦人科医院で希望を話したところ、聞き入れられて出産した。

今回3回目、女のネットワーク誌で毛利を知った。分娩台を使わず、自由な姿勢で生み、臍帯のついたままわが子を抱いた時の感激。出産は人生の原点であると思ったという。「今までにも、自分の娘に出産を見せ

たいと思っていたし、長男、夫にも立ち会って欲しかった。今回はようやく、希望通りできた。家庭分娩も考えてみたが、産後の世話をしてもらうのに無理だと思った」と話してくれた。

初産から乳房の管理は桶谷式で母乳育児に満足していらした。「今回、食事についていろいろと知らなかったことを聞いて、とても参考になった」と感謝されている。

自然に産む喜び

2回目出産のAさん。初回は乳腺炎で苦しいスタート。切開手術を受けた。お乳を飲ませながら乳腺炎を完治できた喜びを聞き、援助の大切さを痛感した。桶谷式乳房管理を受け食事の大切さを知り、マクロビオチック健康合宿に2回出席し健康の大切さを知ったと話してくれる。お産も自然出産がよいと聞き、次の出産は助産所で出産すると決めたとのこと。この方は幼稚園を経営している長男のお嫁さんで、保母さん。

「今回の出産体験は何かの役に立つと思います。前回の出産は、陣痛が激しくなってからの高い分娩台へ移動、固定、会陰切開、吸引分娩。あの時は、『出産ってこんなもの』と思っていたが、今回の出産で全部覆されました」と話してくれた。「前回はだめだめの指示を受けながら出産した。今度はそうでなかった。自由な姿勢でいきみたい時にいきんでいると、『いいのよ、それでいいのよ』。いきみおわると、『そおーよ』という言葉が、またうれしく感じた。頭が出ましたよという声!! あとは楽だった。夫、長男がうれしそうだった。へその緒をつけたまま抱いたり、お乳をふくませたり、主人がへその緒を切ったり、時の流れが楽しく、幸せに2時間流れました」とのこと。母乳についても、自然のしくみのすごさを感じたという。



経腔分娩へのチャレンジ

4人目のTさん。初産時、帝王切開。2回目、3回目は経腔分娩ができた。今回は、経腔分娩を助産所でしたい、そして母乳育児へ持っていきたいとの希望で、枚方市から来られた。私はこの熱意を大事にたく協力した。安全第一と考え、平素お世話になっている総合病院で妊娠中期・後期の受診をしている。しかし、医師は3回目の経腔分娩は要注意であるという意見は出していたが、はっきりと病院出産の指示はなかったので、大きな気持ちで医師の判断を待っていた。

予定日は9月16日。9月1日、夜中陣痛らしき痛み開始。夕方、毛利助産院へ。10分ごとの陣痛になり、病院へ連絡。安全を大事にし、入院分娩が良いとの医師の指示で入院する。

入院して5日目頃から徐々に陣痛が弱くなってきた。本人の希望もあり、毛利助産院で陣痛開始を待つため、9月6日にひとまず退院。病院側は本人の希望する経腔分娩を大事に思っただけで動いてくださっている様子でありがたい。

産婦は万分の一を信じ、自然分娩に熱意を持ち、頑張る。この頑張る心を誤解され、入院中不愉快なことがあった。私も心を痛めた。しかし、受け持ちの医師から、「大きな心であたかく受け止めて、嫌なことは流して、よいお産をしよう」と前向きな言葉をいただき、あっさりと流すことができた。

今夜は、こうして3人の産婦さんと私がいろいろと話し合っている。

9月8日、夜中の1時も過ぎた頃、「お腹がよく張るわ!!」と言いながら、Tさんは話しに夢中だった。9月8日午前2時過ぎ、10分ごとの陣痛で血性帯下が中等量ありといって起こされる。陣痛発作は強い。活気を

感じる。本陣痛を力強く感じる。7分おきで約1分間の強い陣痛が規則正しく来る。今度は本物の分娩開始。本人に説明!! 希望を持って分娩に向かう。病院へ搬送。1時間もすると枚方市から、夫、実母が病院に駆けつけてくれる。産婦も安心したことでしょう。私の役目は終わり、帰ることにした。

午前8時前に電話がある。「生まれました女の子が!! 安産でした」と夫の声。私もホッとする。万分の一を信じ、ここまで頑張ってきた甲斐があった。サンヤ仲間の2人は自分のことのように安産を喜んでくださる。Eさんは言った。「産むのは本人ですものね!!」この言葉の中にはいろいろな意味が含まれていると思った。

9月13日、無事退院。2、3日毛利助産院で静養して枚方市へ帰ることになり、再び帰って来られる。入院して、いろいろと貴重な体験をしたという。強調して言われた言葉は、「安易に帝王切開はしてはいけない。自分の娘によく話してやりたい」というもの。帝王切開したためにこんなにたくさんの問題を抱えていることも知ったと話してくれた。

サンヤでずっと

私は、サンヤ、産家という言葉が好き。吉村典子先生の「子どもを生む」という本の中に、サンヤのことが書いてあった。助産婦は産婦とともに傍で仕事をしている。これからも、若いお母さん方とサンヤで人生を語り合いたいと思っている。

* * *

私の次には、大谷タカ子先生にりれーさせていただけます。開業助産婦としてホノボノとさせられる人柄の先生です。